

証明書+1のあれやこれや

(前後ページ参照)

I. スキー学校の証明書 (左はドイツ文字からラテン文字に書き換え／右は日本語訳)

Z E U G N I S
Herr/Frau/Fräulein _____
hat den vom Japan Travel Bureau
organisierten Schikurs in Bundesheim
St. Christoph/Arlberg Österreich
in der Klasse _____
mit _____
Erfolg besucht.
(オーストリアの地図)
der Kursleiter

St. Christoph/Arlberg am _____

(注) ①性別は長たらしくならないように英語に置き換えた。//②ブンデスハイムはこのスキー学校を実施した組織名//③アルベルクは、ザンクト・クリストフが所在する、フォールアルベルク州とティロール州の境いにある峠の名前//④英語名のオーストリアのドイツ語名はエーステルライヒで、1273年～1918年の間、ハプスブルク家が幾つもの周辺国を支配した「東の帝国」の意味である。

II. 北極通過の証明書(次ページ)<1962年添乗の時のもの>

当時、中国上空を飛行できない国際情勢のため、主力はインド洋経由の南周りが主力であった。その後、北極周りの安全性が確認されたので、アラスカのアンカレッジに寄港する北極周りが可能となり、日本航空利用の乗客に対するサービスとして発行されたのがこの証明書である。

お読みになればお分かりのように、乗客氏名/通過年月日/航空機名(?)/搭乗区間/機長名サイン(木本さん)/日本航空社印。

アンカレッジ空港は往路復路の買い物客で賑わっていた。

III. 日付変更線通過記念証(次々ページ)<1973年年末、10日間の小駐在の時のもの>

これも日本航空のサービスの一つ。項目は見ての通りであるが、書き込みは乗客本人が行うことになっている。長い文章は格好つけてドイツ語で記載。2つめのサインは私なりのドイツ語訳のもの。この用紙は寄せ書き用の厚い正方形のもの。このときは、年末年始の多くのJTBツアーハのため、社の診療所がホノルルのホテルに臨時診療室を設け、社のツアーカーの万一の場合の診療に備えていた。

朝田静夫社長について。後年、トラベルジャーナル紙が呼びかけて発足し、十数名のホールセラーメンバーで構成された「ゼロの会」に、ゲストとしてお招きした際、二言、三言コトバを交わし、人伝てで知ったのか、あることでお褒めに預かった思い出がある。

IV. 三種の神器(最終ページ)<1962年の添乗の時のもの>

観光旅行発足当時、記紀時代の伝えの三種の神器(八咫鏡/草薙剣/八坂瓊杵玉)、昭和の三種の神器(白黒テレビ/洗濯機/冷蔵庫)に準えて、海外旅行の三種の神器として取り上げられたのがスイスのオメガの時計/英国のバーバリーのレインコート/イタリアのボルサリーノの帽子が挙げられていた。ホテル到着まえに、時計店から添乗員の私宛にこんな手紙が届けられていた。

証明書

Mr. /Mrs. /Miss (氏名が入る)

は、オーストリア国ザンクト・クリストフ/アルベルク(峠)のブンデスハイムにおいて日本交通公社主催のスキーコースの級にて
(成績結果)

の成果を以て参加されました。

指導講師

(氏名)

ザンクトクリストフ/アルベルク (日付け)